



居心地の良い図書館

平成26年度から整備を進めてきたMallmallは、まちなかの歴史や変遷を温めながら、そこに集う人々を優しく包みこんでいます。まちなかに新しく吹き始めた風の中、今回は、市立図書館を特集します。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174



一人一人が「大事なものを 見つける「居場所」

市立図書館の指定管理者であり、また、開館までの整備を手掛けてきた(株)マナビノタネの森田秀之代表に、市立図書館のコンセプトや在り方などを聞きました。

「大事なものは 一人一人が持っている

市立図書館のコンセプトは「一人一人が大事なものを見つける」。これは、私が生活の中で日々考えていることから発想しました。それでは、「大事なもの」とは一体何なのでしょう。ようか。

私の「大事なもの」は、米作りです。11年前に東京から長野に移住し、米作りを通して、地球環境や農家の後継者問題など、さまざまなことを学んでいます。私にとって米作りは「大事なもの」ですが、皆さんには、それぞれ違った「大事なもの」があるはずです。

また、東日本大震災の発生後、津波で何も無い状態となった宮城県石巻市雄勝地区の復興に関わった際、地域の人たちにまちなかの様子について

聞いてみました。すると、皆さんの記憶の中に、震災前の街並みや神社の祭りの風景、漁の様子など、共通の記憶がありました。その



雄勝の記憶をまとめた新聞

記憶を集めて、新聞版にまとめて配ると、みんなが笑顔になったのです。このことから、地域にある共通の記憶は、地域にとって「大事なもの」であり、記憶を語り継ぎ振り返る場所が重要だと感じました。そして、鍵となるのは、本や映像などを使って、記憶をつないでいく「人」です。人は記憶に育てられていて、記憶や経験が考え方を変化させます。そこで、市立図書館を記憶を振り返られる場所にしたいと思いました。例えば、他人の会話が漏れ聞こえ、それが記憶を思い出させるような、小さな街並みのような空間が大切だと感じたのです。



ホール



マガジンウォール

「大事なもの」に正解や不正解はありません。それぞれの「大事なもの」を見つけ、表現し、誰かに伝えていく場所として、市立図書館をつくりました。

もっぴーのコンセプトは「居場所」

市立図書館は、記憶の器である本を読み、一人一人の「大事なもの」に影響を与える場所です。そして、影響を受けた「大事なもの」は、多くの人の記憶と時間となって積み重なり、地域の文化へと変化していくのです。だからこそ、本好きの人以

外にも多くの人に来てほしいのです。そのために、市立図書館の整備にあたって、居心地の良い「居場所」をつくることにしました。

「居場所」の「ここに居てもよい」という安心感は、他人と関わる余裕を生み、「何かやってみよう」につながります。他者との関わりが広がると、地域全体が活気付くと考えています。「居場所」が、他者との記憶の共有を生み、それぞれの「大事なもの」を形成していくのです。

市立図書館はショッピングモールをリノベーションしました。元々モール自体が「誰もが入りやすい場所」

だったからこそ、新しい市立図書館をさまざまな人が訪れる「居場所」にできたのです。

変化した市立図書館が市民を変化させる

川魚の「ヤマメ」で例えると、川から海へ下ったヤマメは、新たな環境で生きるために適応して大きなサクラマスに変化しますが、遺伝子はヤマメのまま。市立図書館も同じです。モール跡という異なる環境に適応した図書館は、図書館の遺伝子を持ちながら、地域にある「大事なもの」を発信する機能を持った「次世代型の公共施設」となりました。懐かしさと新しさを備えた、市民の新たな「居場所」が完成したのです。

この市立図書館に、多くの人が来場し、にぎわっています。そのにぎわいはまだ市全体に行き渡ってはいません。多くの市民の皆さんにここに来てもらい、それぞれの「大事なもの（種）」を見つけ、種を持ち帰って育てたり他者と交換したりして、その種が広がることで、市全体のにぎわいにつながるとうれいすね。

また、このにぎわいをチャンスと捉え、市民の皆さんが主体となって、市全体がにぎわうような取り組みを行ってほしいと思います。



(株)マナビノタネ 代表取締役

森田 秀之さん

【プロフィール】

1966年東京都生まれ。1991年(株)三菱総合研究所入社。2007年に退職し、(株)マナビノタネ設立。教育文化施設や観光ツアープログラムなどの文化事業を通じて、地域やコミュニティが、課題やテーマを共有しながら創造的な活動を行う「場づくり」に取り組む。



「大事なものを」を見つける仕掛け

市立図書館には、わくわくしながら「大事なもの」を見つける仕掛けがたくさんあります。

まず1つ目が、木箱架とメッセージカード。これまでの図書館では、検索機で本を見つける方法が主流でした。市立図書館では、店先のウィンドウに飾られた商品のように、書架にある本の例示となるようなものを木箱架に並べています。そして、本に添えられたメッセージカードには、その本をどんな人に読んでもらいたいかなどが書かれています。

2つ目は、新しい試みであるインデックス（さくいん）。気になる言葉を調べることができます。図書館でよく調べられる言葉だけでなく、地域の共通の記憶となり得る言葉も選定。言葉の説明文や、その言



言葉の書かれたスタンプの2次元バーコードを端末で読み取ると、言葉の意味や関連本が表示

葉に関連した本を見つけられます。地域にとって「大事なもの」を表す言葉をスタッフが発見し、増やしていきます。

3つ目は、調べ物を支援するサービス「レファレンスサービス」です。「相談デスク」などで、本に関する詳しい情報や資料についての相談を受け付け、「知りたい欲求」に応えています。

「創造」に向けた仕掛け

「知ることを支えてきたこれまでの図書館に、「表現すること」を新たな機能として加えたのが、市立図書館です。見つけた「大事なもの」から「何か」を生み出すために、「プレススタジオ」「ファッシュラボ」「こどものにわ」があります。

「プレススタジオ」では、地域にとつての「大事なもの」を本や映像などを使って表現する支援や編集、発信などを行っています。

「ファッシュラボ」や「こどものにわ」は、子どもの感性を育むこ



とを大切にしています。定期的開催するワークショップで、表現する面白さが体感できます。

ぜひ、「大事なもの」を見つけに市立図書館へ来館ください。それから創造していくことが始まるかもしれません。



こどものにわ

ミニストーリー

「つながり発酵展」ができるまで



開館から1カ月にわたって館内のギャラリーで開催され、多くの来場者が詰めかけた「みやこのじよう つながり発酵展」。

都城に昔からある、みそやしょうゆ、焼酎など発酵文化に着目したこの企画。図書館スタッフが、原料生産から販売までの流れを細かく取材し、都城で育まれた「大事なもの」を展示しました。

ギャラリーでは、これからもこのような自主企画の展示を開催していきます。お楽しみに！



プレススタジオ



木箱架

「大事なもの」を見つめる 歩いて楽しいストリート

市立図書館の内装・空間デザインの監修を手掛けた(株)アイダアトリエの会田友朗代表に、市立図書館の空間デザインについて聞きました。

マナビノタネ代表の森田さんと共有していた「大事なものを見つける」「自分が居てもよいと思える居場所をつくる」という市立図書館のコンセプトを元に、空間デザインの考え方を整理していきました。

今回は、ショッピングモールの転用ということもあり、当初から商業施設の持つ空間の性質を生かそうと考えていました。そこでヒントとなったのが、パリのパサージュ。私は、古本屋の店先の木箱に、本や骨とう品が並ぶ空間をふらっと歩く中で、何気ない「何か」がふと目に留まり、それが自分の「大事なものとの出会い」かもしれないという可能性を感じ



パリのパサージュ
(両側に商店や市場が並んだ通路)

ました。そのような可能性を秘めた空間を市立図書館に表現したいと思いました。また、私たちはそれぞれ趣味趣向も違い、その日の気分でも選ぶものも変わります。そのような人の多様性を許容する懐の深さを持つのが、ストリートのような空間だと思います。このことから、空間デザインのコンセプトを「歩いて楽しいストリート」としました。

さまざまな機能を持った家具を隙間ができるように並べ、博覧会のパビリオンを巡るように、この隙間を歩き回れるようにしました。また、都城家具工業会の協力で作った木箱架は、パサージュの店先でふと気になる「大事なもの」を見つけれられるような雰囲気を出しながら、本を効果的に展示する機能を備えました。この木箱架は柔軟に組み替え可能で、大空間の中でアクセントとなり、温かみを感じさせる存在としました。

そして、私が最も気に入っているのが、入り口付近の「プレススタジオ」の空間。この市立図書館の特徴を最も表す空間だと思います。従来の図書館と違い、市立図書館に入っ

てすぐに書架を置かず、広々とした空間があるのは、「本ではなく人が主役」であることが端的に表れていて、とても画期的です。

設計はともすると、読書席は読書するための席といったお仕着せになりがちですが、「大事なもの」と「居場所」というキーワードに「ストリート」を合わせたことで、自由で多様な空間を市立図書館に実現できたと思います。

この市立図書館で、利用者が自分なりの居心地のよい「居場所」をつくってもらえればうれしいですね。



(株)アイダアトリエ
代表取締役
一級建築士

あいだ ともろう
会田 友朗さん

【プロフィール】

1975年東京都生まれ。2003年ハーバード大学大学院建築学修士課程修了。2009年(株)アイダアトリエ設立。